



くらし・区政アンケートに切実な声が続々…

毎年、日本共産党区議団の「くらし・区政アンケート」に連日多くの返信が寄せられています。その自由記載欄には、区民の切実な声がびっしり書き込まれています。党区議団は、お寄せいただいた声を届けるために全力をあげます。引き続き、ご協力をお願いいたします。

今号では、「くらしの困りごと」、「物価高への対策」、「新型コロナウイルス対策」についての一部をご紹介します。

1.くらしについての困りごと

- 子どもたちの学費、コロナ感染後遺症。
- 健康保険料のアップ(1割⇒2割)
- 年金が毎年下がっている。物価・コロナに合わせてあげて欲しい。
- 食料品の値上げで支出が大幅に増え、年金だけのくらしは苦しい。
- 毎日、頭上を旅客機が轟音をたてて飛来。中止してほしい。
- 給料は上がらないのに、物価はどんどん上がる。
- 果物の大好きな私は、果物の高いのにびっくりする。スーパーでお買い物をする時1回5000円が当たり前になっている。
- 収入が少ないのに、医療費等が高い。
- 普通に買っていた日用品が、目に見えて上がっている。
- 年金が増えないのに、すべての品が値上がりするのに困った。
- 正社員としての雇用機会が少ない。正社員は働かず、非正規が仕事をカバーしている。同一労働同一賃金がなされる様子がない。
- 税金も物価も高くなり、交際費や趣味にお金を使えない。何よりコロナの影響で感染しないか心配、気軽に外出できない。(20代)

2.物価高への対策

- 消費税は5%に下げてください。
- 高給の人からもっと税を取ってください。10万円の人と1万円と、1000万円の人と100万円は全く違います。
- 消費税減税、ガソリン、電機など減額、安定供給。農家さんに国から保障で安定収入、安定物価。
- お墓参りや病院通い、お買い物等にタクシーを利用した場合、補助や割引サービスをしてほしい。免許も返上し、どうしてもタクシーが必要です。
- 年金を増やして欲しい。
- 妊娠、出産への助成の強化。教育への投資。生活に必要な物、サービスの利用高騰で貯蓄も投資も資産運用も難しい。

3.新型コロナウイルス感染症対策

- 高齢者としては、コロナ禍では怖くて外出できない。高齢者がコロナになっても診療・入院できない事態を無くしてほしい。またPCR検査、抗原検査がいつでもできるようにしてほしい。
- 長女がコロナ感染後遺症で、大学留年。医学部で年間学費580万円が飛ぶ。
- 渋谷区の発熱外来医療機関は、どこどこにあるのかわからない。
- 区民への区独自の助成。
- 発熱後、診察してくれる医療機関を増やして欲しい。
- 保育士ですが、子ども、職員が陽性になっても「自分で検査するように」と言われました。介護・保育施設には検査キットを与えてほしい。(保育士)
- コロナかな?と思ったら、すぐに検査、診療を受けられるようにする態勢づくり。後遺症のケアクリニックの充実。

長谷部区長の来年度予算編成方針示される 物価高、コロナ禍で苦しむ区民置き去り！区民の声で転換を

区長の令和5年度予算編成方針が、8月24日の幹事長会で示されました。いま区民は、物価高とコロナ禍に苦しんでいます。日本共産党区議団のアンケートにも切実な声が多く寄せられています。(左記参照)

こんな時こそ、税金は、区民に寄り添い、いのちとくらしを守るために使うことが求められています。ところが予算編成方針の情勢認識では、区民の実情にはまったく触れていません。「基本方針」では、「令和5年度予算は、不透明な財政状況を想定して経費全体の

縮減に努め、行財政運営の持続可能性を確保しつつ、区民が安全・安心に、そして快適に暮らせるよう、デジタル技術を活用した行政サービスを推進していく」と表明。区民の安全・安心なくらしをデジタル化で実現するとの方針だけで、「区民生活を守る」

自治体の責任を放棄しています。分野別の教育では、「学校施設長寿命化計画」(20年間で22の小中学校を建て替える計画)は、「着実に個別計画の策定を進め」として、少人数学級に背を向け、学校統廃合を進めようとしています。

私は幹事長会で、物価高やコロナ禍などで苦しむ区民に寄り添い、支援するよう区長に求めましたが、引き続き第3回定例会や来年度予算要望で区民のみなさんの声を届けるよう全力をあげます。

「職員人件費」では、「区の仕事が増加して支援の考えも示されていません。」

「効率化」で解決するとしています。これは福祉、教育や窓口業務など、直接人と接することでしか豊かな行政サービスを実現することができない分野での人材の確保ができません。